

第 10 章 計画の達成状況の評価

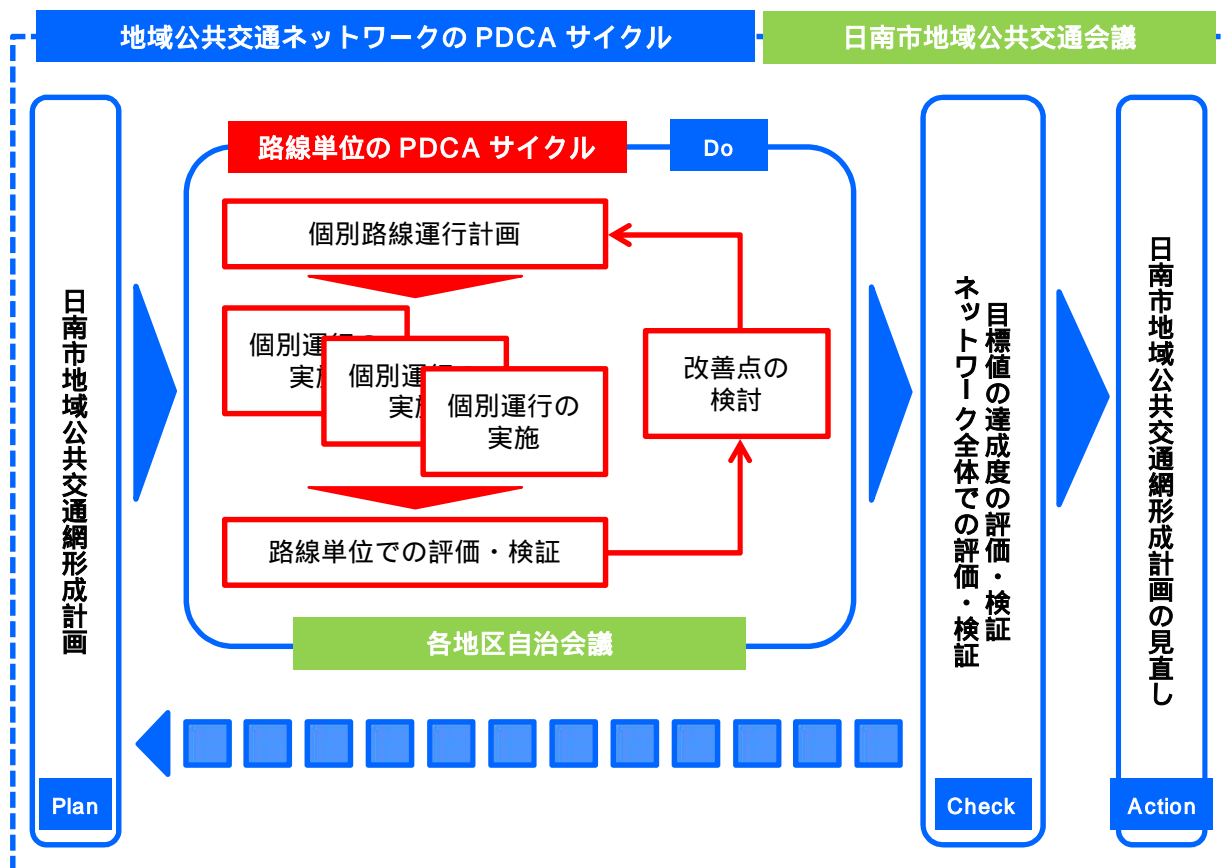
1 . PDCA サイクルによる施策の推進

日南市公共交通網計画を実施していく上で、網形成計画を起点として路線単位の PDCA サイクルに対して評価、検証・改善策の検討は、日南市地域公共交通会議の場で実施をする。

公共交通ネットワークの評価は、「路線単位での評価」「ネットワーク全体での評価」の視点に基づき、総合的に評価・検証を行う。

目標値が達成できていない場合は、その要因を分析し、改善策を検討する PDCA サイクル（計画～実行～評価～改善）によって実施する。

- ・路線単位（地域交流交通及び個別輸送）の評価は、原則的に 1 年間の運行を経て評価基準に基づき毎年実施する。
- ・ネットワーク全体での評価は、計画の目標年度（5 年後）において、地域幹線バス及び広域幹線バス路線のネットワークとして機能しているかを総合的に評価、検証し、計画の見直しに反映させる。



2. 評価方法

日南市公共交通を維持していく上で公共交通軸の機能（広域幹線バス、地域幹線バス）についてのバス路線の評価は、路線維持の考えに基づく運行主体が中心となり、路線存続の妥当性を判断する「維持基準」と路線見直しや利用促進に向けた判断基準となる「見直し基準」について設定する。

ネットワーク全体での評価（案）

生活ニーズに合ったサービス提供がなされているか？（サービス評価）		
		評価の視点
維持基準	需要(利用者数)と供給(輸送力)のバランス検証	需要に応じたルート・ダイヤ設定となっているか？ 需要に応じた車両選択となっているか？
	地域の取組みを検証	地域による取組みは実施されているか？
見直し基準	サービスの妥当性を検証	定性的なサービスが確保されているか？
	ネットワークの妥当性を検証	需要に応じたネットワークとなっているか？ 他路線と競合関係にないか？ 乗り継ぎ抵抗の軽減は図られているか？

バスが利用され一定の費用効率が確保されているか？（事業評価）		
		評価の視点
見直し基準	利用者数と運行経費のバランスを検証	バス利用者数は増加しているか？ 費用効率が極端に悪化していないか？ 市財政に対する負担は適切か？

バス運行の目的は達成されているか？（政策評価）		
		評価の視点
見直し基準	運行目的の達成状況を検証	公共交通が利用できる環境にあるか？ 各路線が期待される役割を果たしているか？ 運行目的に合った利用がされているか？
	安全安心の観点から検証	運行上の問題が発生していないか？

個別運行を行う地域公共交通（コミュニティバス）は、路線バスと比べて沿線の居住者が少なく、利用ニーズがそれほど高くない地域を運行するため、運行見直し基準は路線バスの考え方より低く考える。地域公共交通の見直し基準としては、運行収支率を基準に設定する。

現在のコミュニティバス交通は 6 路線あり、各路線の収支率は以下の通りとなる。

コミュニティバス路線別収支率（平成 29 年度）

路線名	利用者数（人）	運行経費（円）	所定運賃収支（円）	経常収支率（％）
大戸野線	5,533	5,860,952	755,550	12.9
広河原・猪八重線	4,502	5,860,951	483,100	8.2
酒谷・吉野方線	4,893	6,904,590	907,900	13.1
細田・隈谷線	3,775	6,904,589	713,200	10.3
札之尾・中部病院線	1,352	5,684,128	237,450	4.2
大牟礼・中部病院線	1,641	5,684,129	244,150	4.3

日南市総合戦略課資料

地域公共交通（コミュニティバス）運行見直し基準：経常収支率 5.0%未満

日南市地域公共交通網形成計画

監修：名古屋大学大学院環境学研究科 加藤 博和

発行：宮崎県日南市 総合政策部 総合戦略課

宮崎県日南市中央通 1 丁目 1 番地 1

電話 0987-31-1128